

長岡市内遺跡発掘調査報告書

栖 吉 地 区
蔵 王 堂 城 跡
上 除 地 区

1995

長岡市教育委員会

序

大河信濃川が市内を東西に分ける長岡市には、旧石器時代から近世までの遺跡が380カ所以上確認されています。なかでも、火焰土器の馬高・三十稲場遺跡や藤橋遺跡（いずれも国の指定史跡）をはじめ多数の縄文時代の遺跡があり、あたかも「縄文のふるさと」とでも言うべき様相をしています。

現在、長岡市ではテーマパークのスペースネオトピアの建設や圃場整備事業など、各種の開発が目白押しです。これらの開発計画に対し、日本古来の文化を遺跡として残している埋蔵文化財を、如何にして保護するかについて、調整を図る必要があります。この調整に臨む協議資料として遺跡の規模や内容等を把握するため、長岡市教育委員会では確認調査を行っています。

平成6年度は、銅像建立計画、国道の拡幅計画、市道の建設工事計画に伴って、蔵王堂城跡などで確認調査を行いました。調査の成果は、さっそくに開発主体者との協議資料として活用し、埋蔵文化財の保護に努めています。本書は、この調査の記録です。

最後になりましたが、文化庁、新潟県教育庁文化行政課をはじめ、関係各位から多くの御指導並びに御協力を賜りました。ここに厚くお礼を申し上げます。

平成7年3月

長岡市教育委員会

教育長 大西 厚生

例 言

- 1 本書は、平成6年度に実施した長岡市内遺跡発掘調査の記録である。
- 2 調査は、国庫補助金及び新潟県支出金の補助を受けて実施した。
- 3 発掘調査は、長岡市教育委員会が主体となって平成6年7月から11月までの間に行った。
- 4 調査の記録図面、写真及び出土品は、長岡市教育委員会が保管している。
- 5 発掘調査から本書の作成まで、社会教育課の駒形敏朗と小林伸治が担当した。

目 次

- | | |
|--------------------|----|
| 1 栖吉地区確認調査 | 1 |
| 2 蔵王堂城跡 | 5 |
| 3 上除地区確認調査 | 8 |
| 4 おわりに | 12 |
| 調査体制 | 12 |
| 調査に御指導・御協力をいただいた方々 | 12 |

1 栖吉地区確認調査（第1図～第6図）

所在地 長岡市栖吉町字清水田・中道

立地（第1図・第4図） 前田遺跡（5）は、平成5年に発見された縄文時代の遺跡で、栖吉川の右岸に発達した標高約67mの小さい河岸段丘に位置する。地目は畑。栖吉遺跡隣接地は、東山と悠久山とに挟まれた扇状地に位置している。標高は約70m、地目は水田。

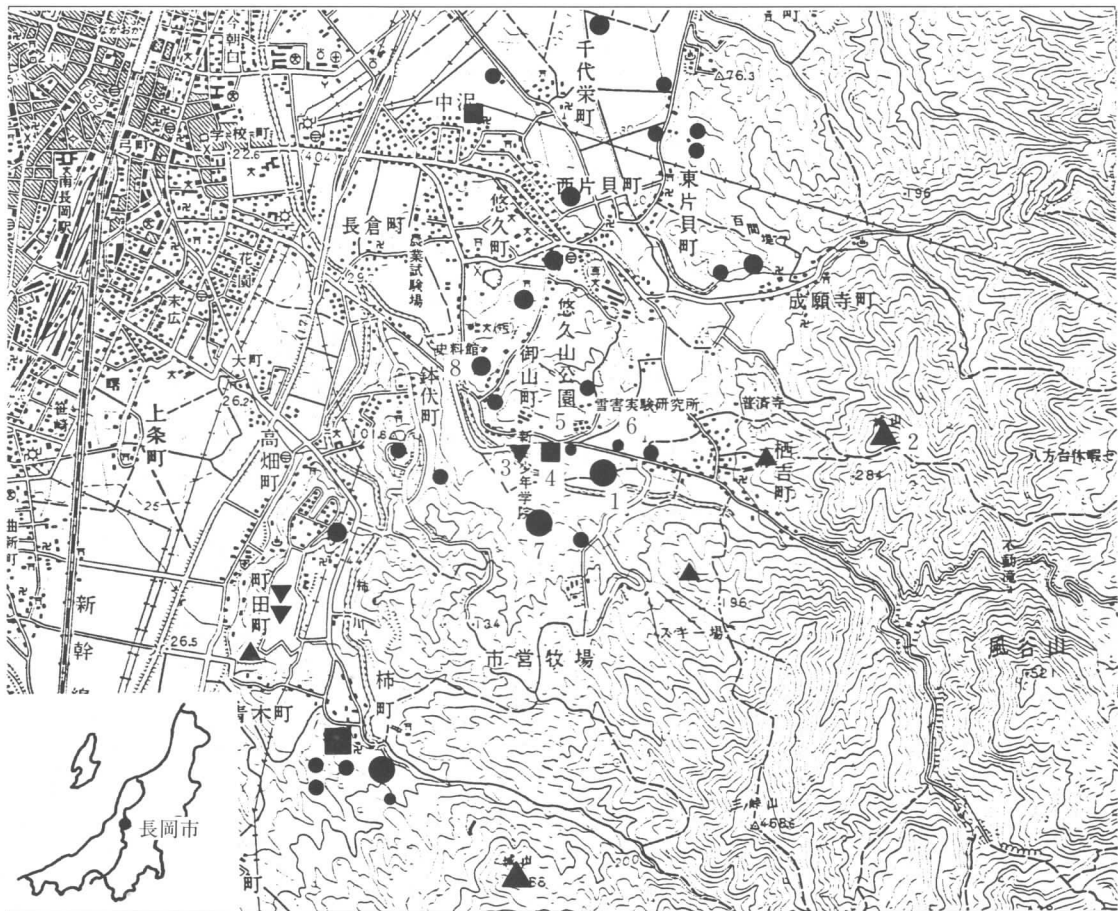
この栖吉地域には、縄文時代・中世の松葉遺跡（7）、縄文時代・古代・中世の中道遺跡（1）、弥生時代の堅正寺遺跡（8）、中世山城の栖吉城跡（2）、中世墳墓の三貫梨墳墓（3）、中世寺院の可能性が高い三貫梨館跡（4）など（●集落中心の遺跡、▲山城跡 ■館跡 ▼墳墓・塚）がある。

調査に至るまで 国道352号線の拡幅計画地が、平成5年度の新潟県教育庁の遺跡詳細分布調査で発見された前田遺跡の北端部及び栖吉遺跡の南側隣接地に当たることから確認調査を行うことになった。

調査（7月21日～7月28日、第5図） 畑地の前田遺跡は人力で発掘し、水田の栖吉遺跡隣接地はバックホーで発掘を行う。調査グリットは、前田遺跡では2×4mのグリットを10mおきに7カ所を設け、栖吉遺跡隣接地は、20mおきに6×3mのグリットを10カ所を設定する。調査面積は合計約250㎡。

調査の結果 11Gから珠洲焼の摺鉢が2点出土した。ほかに遺構・遺物とも発見されなかった。なお、11Gはグリットをほぼ倍に拡張して調査を行ったが、摺鉢以外の遺物・遺構はなかった。

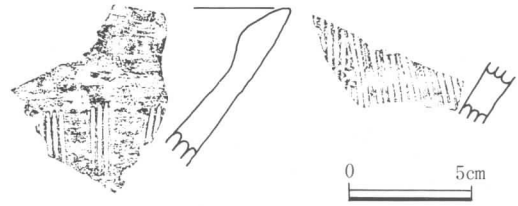
土層序（第3図） 前田遺跡は基本的には表土（I）と地山の2層で、畑地部分は黄褐色土（II）、湿地7Gは青灰色粘土層（V）が地山である。一方の栖吉遺跡隣接地は、耕作土、灰黒色土（II）、黒褐



第1図 調査地位置図（1/50,000 長岡）

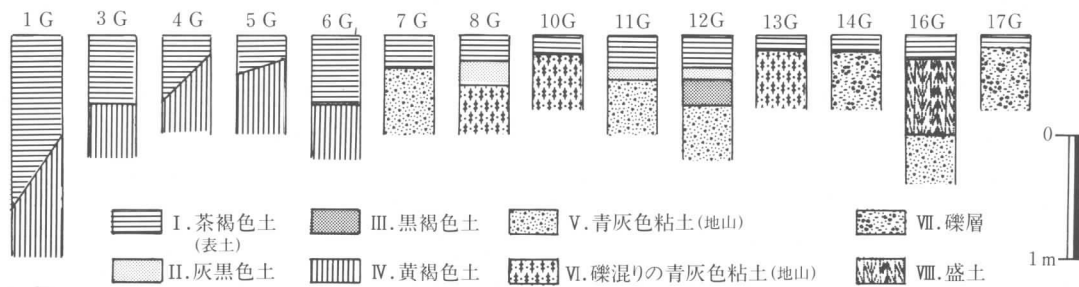
色土（Ⅲ）、地山に分けられる。地山層は、青灰色粘土（Ⅴ）、礫混じりの青灰色粘土（Ⅵ）、礫層（Ⅶ）であり、湿地であることを示している。

遺物（第2図） 同一個体の珠洲焼の摺鉢が11Gの地山上面から小石に混じって出土した。摺鉢は口唇部内面に波状文が描かれた15世紀前半の摺鉢である。

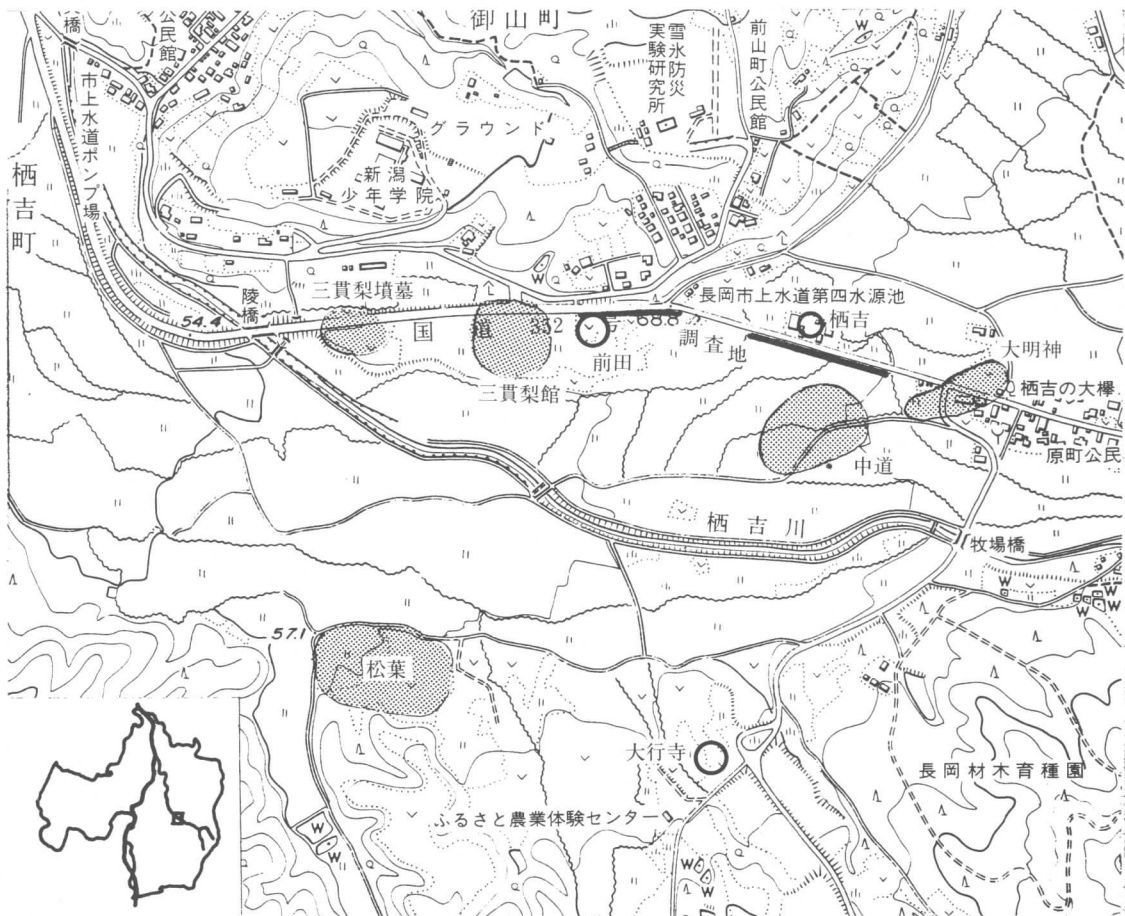


第2図 出土珠洲焼摺鉢

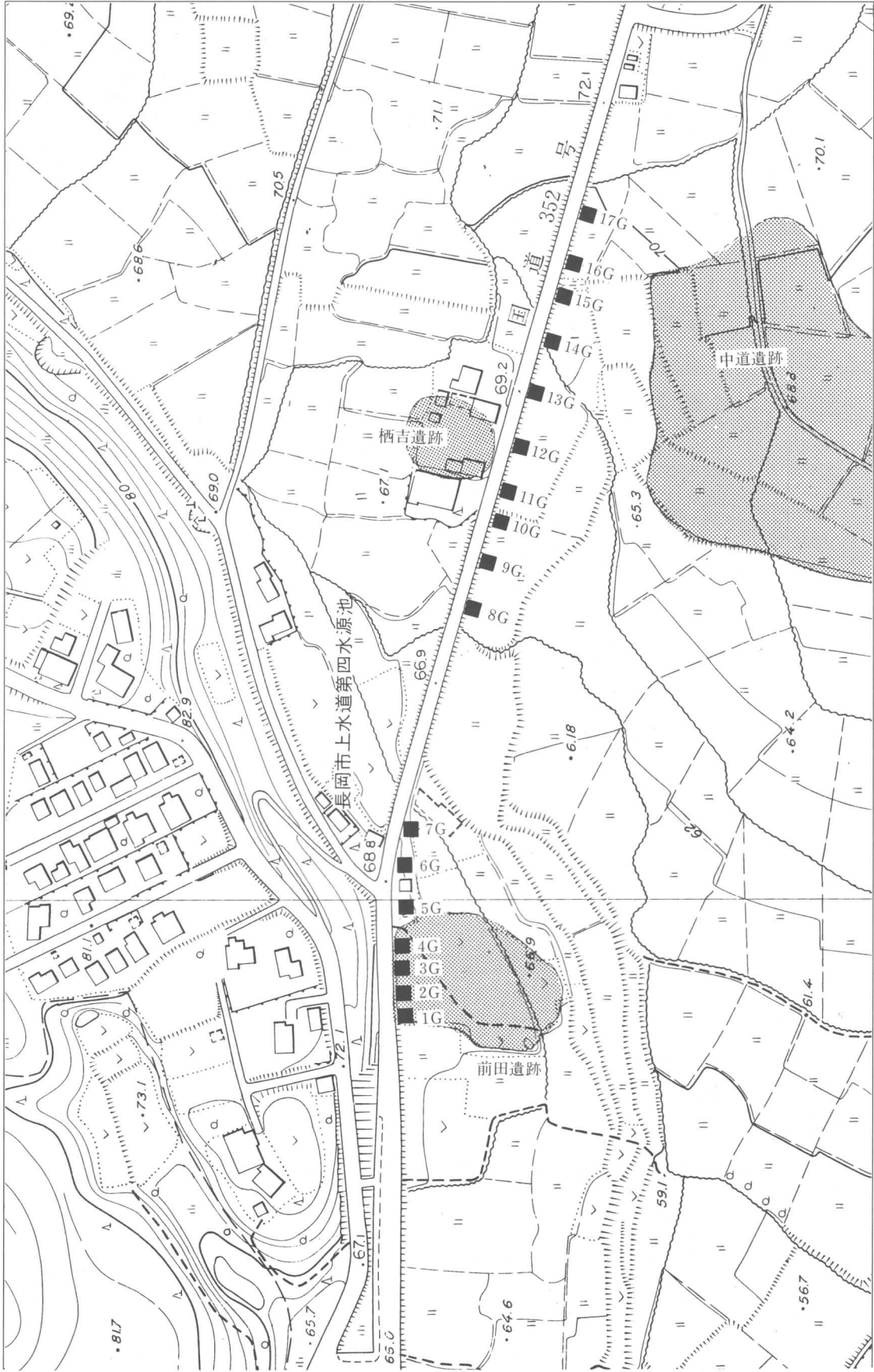
まとめ 前田遺跡では遺構・遺物とも発見されず、道路拡幅地は遺跡から外れている。栖吉遺跡隣接地からは摺鉢が出土したが、扇状地の中で小石混じりで出土したこと、さらに地山が湿地である、と言うような状況等から摺鉢は他所からの流れ込みと考えられる。このことから栖吉遺跡隣接地は遺跡とは思われず、国道352号線の拡幅計画地—前田遺跡・栖吉遺跡隣接地には遺跡は存在しないと思われる。



第3図 土層柱状図



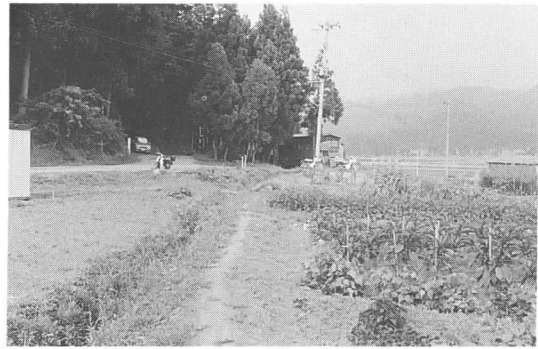
第4図 調査地周辺の地形図（1/10,000）



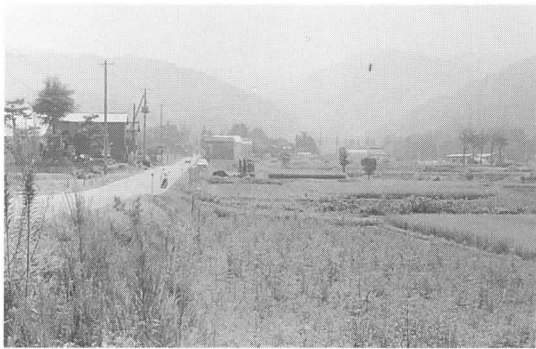
第5図 確認調査グリット図 (1/2,500)



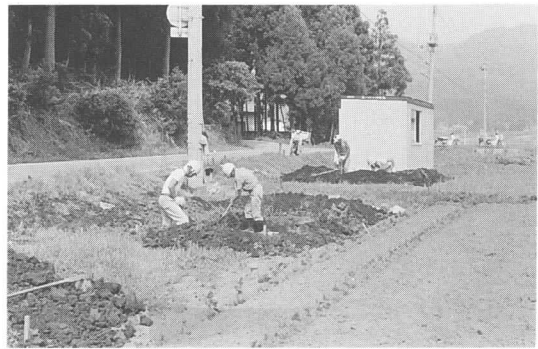
調査地遠景（南西から）



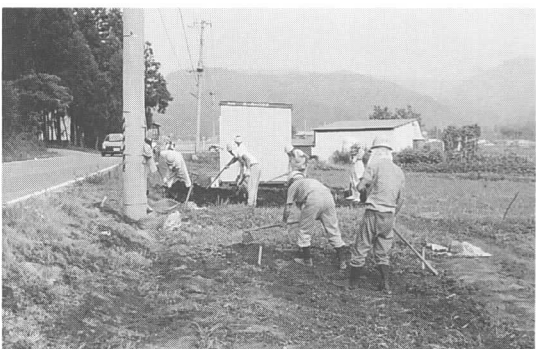
前田遺跡近景（西から）



栖吉遺跡付近近景（左手栖吉遺跡）



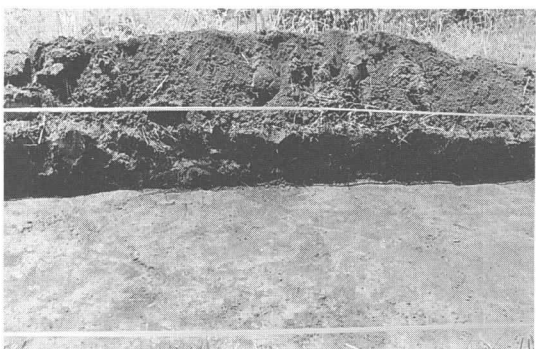
発掘スナップ



埋め戻しスナップ



重機での発掘（水田部分）



5 G 完掘状況



11 G 完掘状況

第6図 確認調査

2 蔵王堂城跡（第7図～第11図）

所在地 長岡市西蔵王3丁目2-16

立地（第7図・第9図） 蔵王堂城跡は、信濃川右岸沿いの標高21mの沖積地に位置する。城は、主郭と第二郭があり、自然の要害の信濃川を背にして主郭の北・東・南の土塁を築き、三方の守りを固められていた。主郭は現在、安禅寺の境内、宅地、工場敷地で、第二郭は金峯神社の境内で、城の施設としては主郭を囲む北・東・南の土塁および濠の一部が残っている。

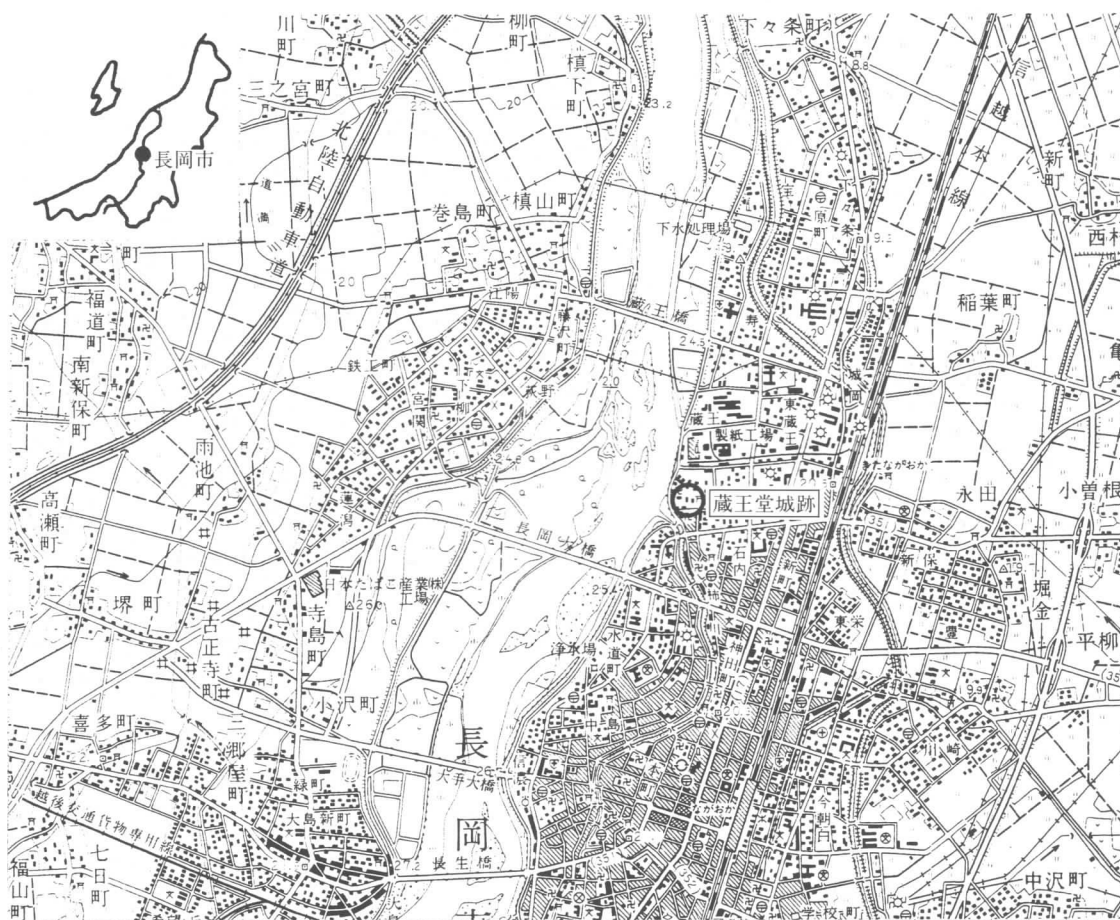
調査に至るまで 堀直奇顕彰会（会長 河田吉次郎）より蔵王堂城主「堀直奇」の偉業を後世に伝えるため、銅像及び顕彰碑の建立計画が出された。銅像は南土塁上に建立するため、新潟県教育委員会と協議をした結果、予定地の台座基礎工事で掘削する地下50cmを対象に発掘調査を実施することになった。

調査（10月6日） 銅像建設予定地4m×4mを対象に調査を実施した。台座基礎工事で掘削する地下50cmまで掘り下げて、土塁の堆積状況等を確認することを目的に行った。発掘にあたっては、銅像建立工事業者より小型のパワーショベルの提供を受けた。遺物の出土状況、土層の堆積状況などを確認し、写真撮影等の記録後、調査を終了した。

調査の結果 土塁上の柵列等の遺構は発見されなかったが、染付が1点出土した。

土層序（第8図） 発掘調査で確認された土層はつぎのとおりである。

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| I層 茶褐色土（砂質、表土） | III層 黄褐色土（砂質、直径5cm玉石混じり） |
| II層 暗黒褐色土（砂質、直径5cm玉石混じり） | IV層 黄褐色土（砂質、土に締まりある） |



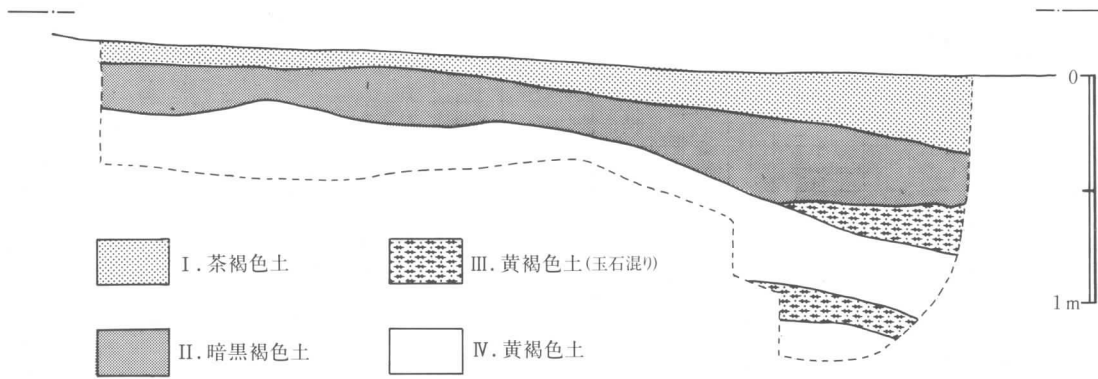
第7図 調査地位置図（1/50,000 長岡）

西側の断面（第8図）をみると、土の堆積が南から北にかけて傾斜している。I層、II層とも北側の方が厚く堆積している。特に、II層は、南側に比べ北側の方が玉石の層が厚く、しっかりしている。

発掘は、深さ50cmであったが、土層を確認するため、北側を1mほど掘り下げた。すると、II層の下にIII層、IV層、III層、IV層というように交互に堆積している状況がわかった。これは交互に堆積している部分が版築によって盛られていると思われる。

遺物（第10図） 今回の調査で出土した遺物は地下70cmのIII層からの近代以降の染付1点が出土した。皿の口縁片である。素地は白色を呈する。暗青色のコバルト青料で文様を描き、口縁に沿って、茶褐色の線を引いている。その上に透明釉を施している。

まとめ 今回の調査では、蔵王堂城跡の主郭の南土塁上の北寄り部分を発掘した。土塁上に柵列等の遺

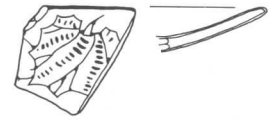


第8図 西側壁面土層断面図



第9図 調査地周辺図 (1/2,500)

構はなかった。土層を見るとⅢ層とⅣ層が交互に堆積しており、地表下60～130cmは版築によって土塁が盛られている。また、地下70cmのⅢ層から染付が出土した。この染付は近代以降の遺物であるため、近代以降、蔵王堂城跡が城としての機能が終わった後、少なくとも、地下70cmより上は、新たに土塁に盛



第10図 染付 (S=1/2)

られたことになる。なお、1979年の蔵王堂城跡発掘調査では、主郭南側の濠に設定した第5トレンチの成果から濠北側の南土塁は、最近、宅地などの際に余った土砂を土塁に盛り城郭時代よりも規模を大きくしている可能性が強いことが報告されている（長岡市教育委員会1981年『蔵王堂城址発掘調査報告書』）。今回の調査ではこのことを裏付ける資料が得られた。

土塁全体の構造については、今後、将来の調査に期待したい。



調査地遠景（南から）



調査地近景（南から）



調査地近景（南東から）



発掘作業（東から）



発掘作業（南西から）



完掘状況（北から）

第11図 確認調査

3 上除地区確認調査（第12図～第18図）

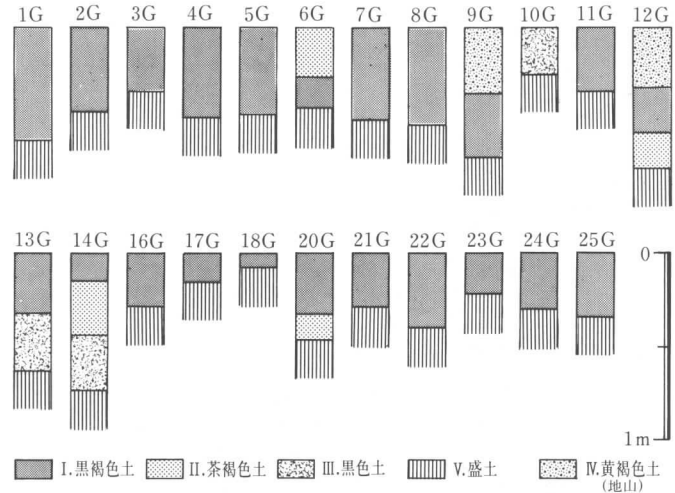
所在地 長岡市上除町1218-14ほか

立地（第13図・第16図） 関越自動車道の長岡インターチェンジの西側で信濃川左岸に形成された関原丘陵上に立地する。標高は45～48m、南半部は緩く傾斜し、北半分はほぼ平坦な地形を呈する。調査地の現況は、畑地及び旧宅地。周辺の遺跡環境には、同じ関原丘陵上に、馬高・三十稲場遺跡（1）、南原遺跡（2）、転堂遺跡（3）などがある。

調査に至るまで 調査地は、都市計画道路3・4・22関原町日越線（西幹線74号線）の計画に伴い、平成3年6月23日、現地で分布調査を実施した。その結果、縄文土器片2点（第14図）しか採集しなかったが、地形的に未周知の遺跡が存在する可能性があるため、遺跡所在の確認調査を実施することにした。

調査（平成6年11月14日～18日、第17図）

調査は、2×3mのグリットを計画道路中心線上に10m間隔で25か所設定し、遺物



第12図 土層柱状図



第13図 調査地位置図（1/50,000 長岡）

が出土したグリットを拡張するように行った。発掘面積は合計155㎡。

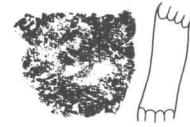
発掘作業は、各グリットごとに人力で地山面まで掘り下げ、遺構の有無、遺物の出土状況、堆積土層などを確認し、写真撮影等の記録後、順次埋め戻し作業を行った。



第14図 採集土器(S=1/2)

調査の結果 25か所のグリットのうち、5Gから縄文土器片が1点出土したが、遺構は検出されなかった。その他のグリットからは遺物、遺構等は確認できなかった。

なお、5Gはグリットを北へ4m、南へ4m、東へ2m、西へ5m拡張して(全体計34㎡)調査を行ったが、遺物・遺構は確認できなかった。



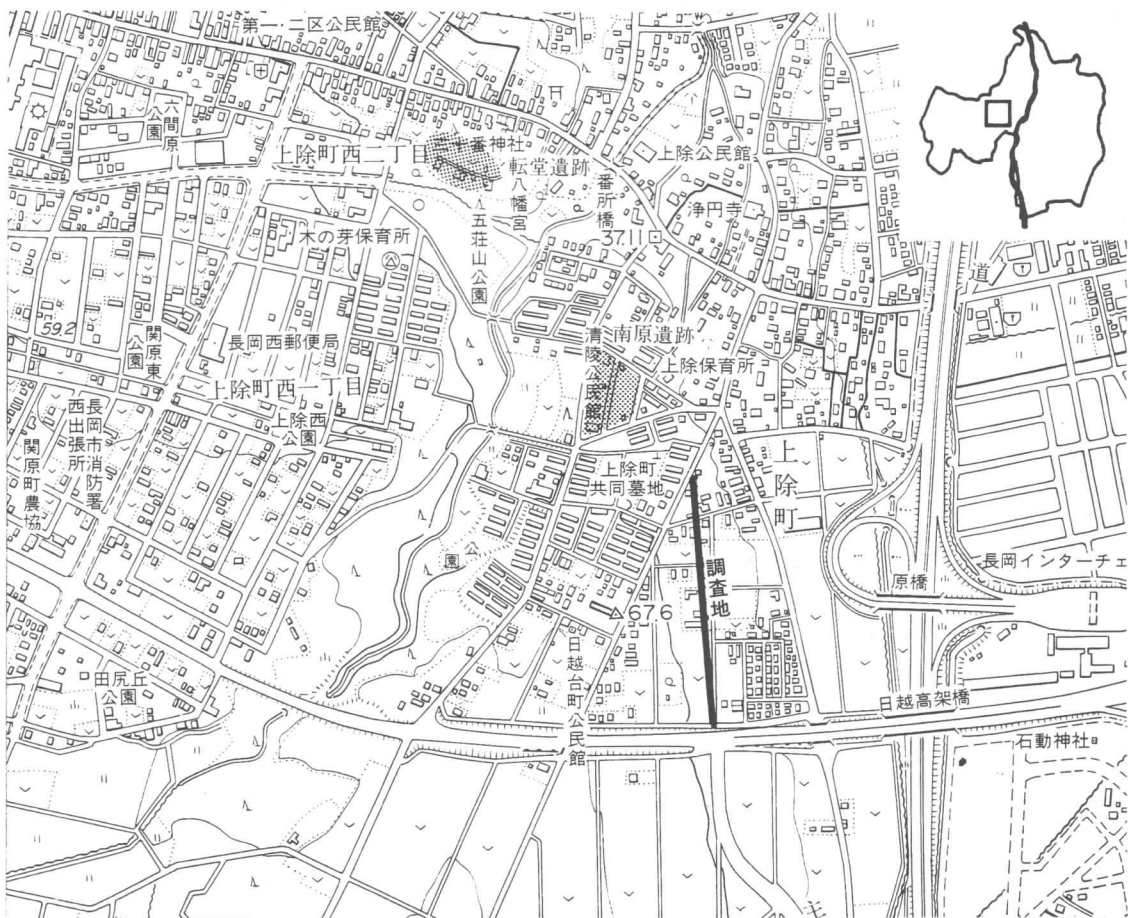
第15図 出土土器(S=1/2)

土層序(第12図) 基本的な土層序は、黒褐色土(I層)、茶褐色土(II層)、黒色土(III層)、黄褐色土(地山・IV層)、盛土(V層)である。旧宅地の3G・6G・9G・12G・15G・18G・19Gは、削平されており、それ以外のグリットは、安定した土層の堆積であったが、遺物包含層は見られなかった。

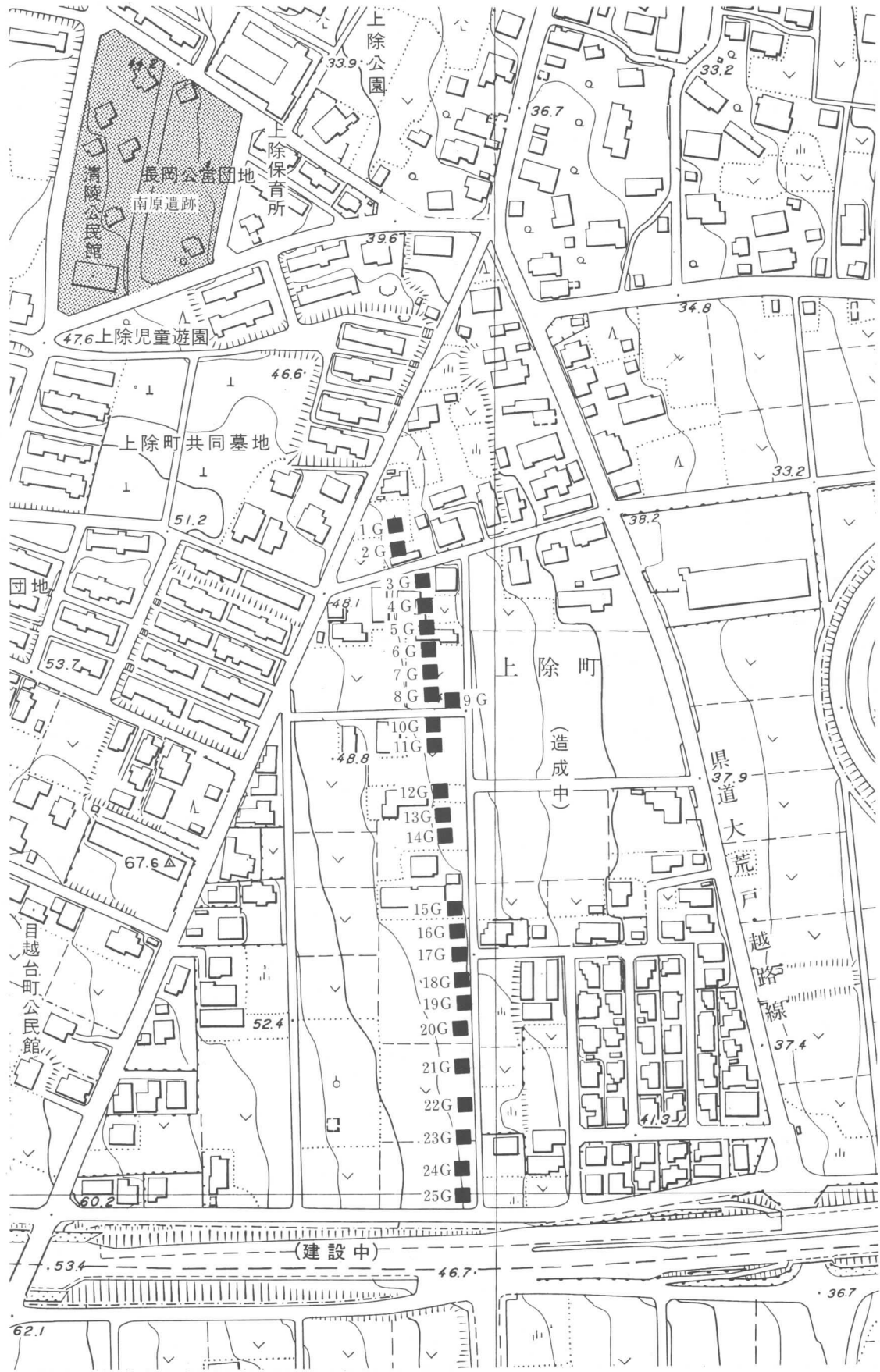
遺物(第15図) 今回の調査で出土した遺物は、5Gの縄文土器片1点のみであった。縄文土器と読み取れる以外は、土器からの情報はわからなかった。

まとめ 今回の調査は、道路計画上に遺跡が所在するかを目的におこなった。

調査の結果、①遺構がないこと、②出土遺物は、縄文土器の小破片1点であること、③土層の観察から遺物包含層はないものと思われること、④周辺で分布調査を行ったが、遺物は採集しなかったことから調査地には遺跡が所在しないことが確認された。また、分布調査時の採集土器と5Gから出土した土器は、以上のことから他の地域からの流入と考えられる。



第16図 調査地周辺の地形図(1/10,000)



第17図 確認調査グリット図 (1/2,500)



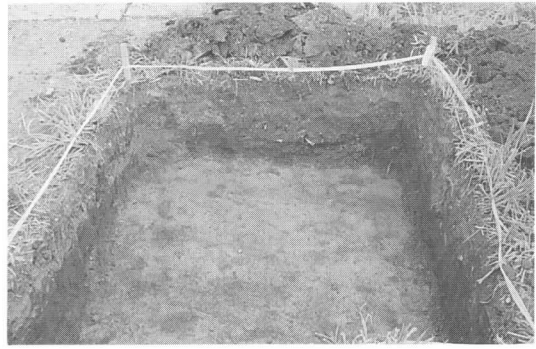
調査地近景（南から）



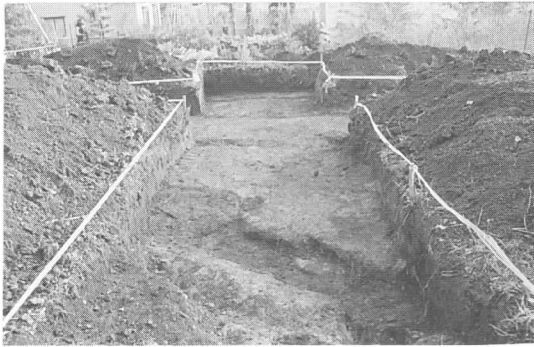
調査地近景（北から）



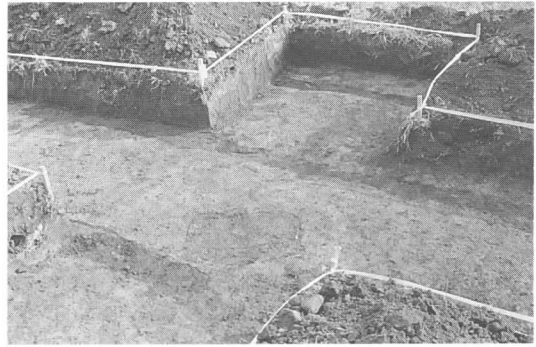
発掘作業（14G南から）



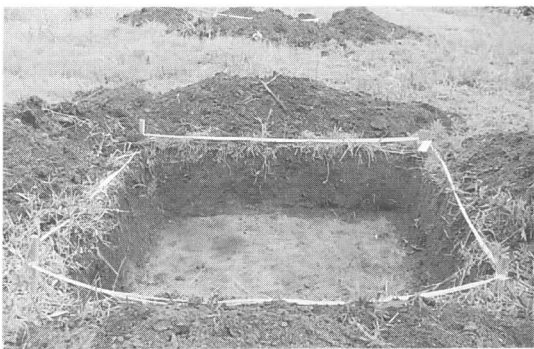
13G完掘状況（南から）



5G完掘状況（西から）



5G完掘状況（南西から）



8G完掘状況（南から）



埋め戻し作業（5G南西から）

第18図 確認調査

4 おわりに

今年度の市内遺跡発掘調査は、国道352号線の拡幅計画での前田遺跡と栖吉遺跡隣接地、最後の城主である堀 直奇の銅像建立に伴う蔵王堂城跡の土塁、それに計画段階での分布調査で土器を採集した上除地区の市道予定地の3カ所を対象に行った。その調査成果は、開発主体者との協議の資料として活用し、国道352号線、上除地区の市道は来年度から工事に移るようになっている。また、蔵王堂城跡では堀 直奇の銅像の建立が地元民の手で進められている。

なお、国道352号線は大明神遺跡の隣接地を通過する計画であるので、用地買収後の来年度に確認調査を行う予定である。

長岡市教育委員会では、周知の遺跡が所在する土地での開発はもちろん、未周知の遺跡でも分布調査での確認、さらには遺跡が所在する可能性が高い場合は、試掘調査を実施して遺跡の所在や範囲などの確認を行っている。その他、この報告書には盛りされていないが、土取り場の拡張計画では、事業者からバックフォーの提供で未周知の遺跡の確認調査も行っている。来年度以降もこの姿勢で各種開発計画に臨み、遺跡の保護には遺漏の無いように努めていく所存である。

調 査 体 制

調査主体者 長岡市教育委員会（教育長 太西 厚生）
調査担当者 駒形敏朗・小林伸治（長岡市教育委員会社会教育課）
調査事務局 長岡市教育委員会社会教育課（課長 廣川 清喜）
調査作業員 調査地地元民

調査に御指導・御協力をいただいた方々

遠藤孝司 河田吉次郎 島津石材店 高橋 保 土田孝夫 長谷川大五郎 吉沢俊夫

長岡市内遺跡発掘調査報告書

－栖吉地区・蔵王堂城跡・上除地区－

平成7年3月30日印刷 平成7年3月31日発行

発行：長岡市教育委員会

印刷：北越印刷株式会社

報 告 書 抄 録

ふりがな	ながおかしないいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	長岡市内遺跡発掘調査報告書							
副書名	栖吉地区・蔵王堂城跡・上除地区							
巻次数								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	駒形敏朗・小林伸治							
編集機関	長岡市教育委員会							
所在地	〒940 新潟県長岡市幸町2-1-1 TEL 0258-39-2240							
発行年月日	西暦 1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まえだ いせき 前田遺跡	にいがたけんながおかし 新潟県長岡市 すよしまちあざしみずた 栖吉町字清水田	15202	355	37°25'15"	138°53'14"	19940721 ~0728	56	国道拡幅
すよしいせき 栖吉遺跡	にいがたけんながおかし 新潟県長岡市 すよしまちあざなみち 栖吉町字中道	15202	6	37°25'15"	138°53'24"	19940721 ~0728	194	国道拡幅
ざおうどうじょうあつ 蔵王堂城跡	にいがたけんながおかし 新潟県長岡市 にしざおう 西蔵王2-16	15202	140	37°27'49"	138°51'06"	19941006	16	銅像建立
かみのぞきちく 上除地区	にいがたけんながおかし 新潟県長岡市 かみのぞきまち 上除町1218外	15202	—	37°26'37"	138°47'16"	19941114 ~1118	155	市道建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
前田遺跡	遺物包含地	縄文	なし		なし		調査地は遺跡外	
栖吉遺跡 隣接地	遺物包含地	中世	なし		珠洲焼摺鉢		遺物は流れ込みで 遺跡ではない	
蔵王堂城跡	城館跡	中世	土塁		なし		土塁上を発掘	
上除地区		縄文	なし		縄文土器1点		遺跡でない	